

## 課題テーマ別調査研究を終えて

平成 23 年度課題テーマ別調査研究のインディペンデントテーマコース第 2 コースの課題テーマは「地域交通対策の取組み」である。このテーマのねらいは、本文の「調査の目的と背景」に記載のとおりであるが、県内市町村では、地域によってこのような課題を抱えているところがあるように見受けられる。

グループ研究員は県内市町村長から推薦された 10 名で、交通施策に関係する職員に加え、地域交通に強い関心を持つ職員で構成されている。

国内における調査研究は、研究会の中心的役割を担うリーダー及びサブリーダーを選出し、5 月より研究会が始まった。最初の研究会から、各研究員の様々な課題意識や海外事例等調査先候補の検討、今後の研究会スケジュール等の活発な意見交換が行われた。その後も、集合研究会の他、文献やインターネット等を駆使し、各研究員が海外事例の情報収集等の自己研究を行い、随時、グループ研究員専用の電子会議室上で情報交換をして研究を進めた。また、当該研究テーマが専門である大学等の有識者のところへ研究員有志で相談に伺ったり、課題意識が近い研究員が 3 つのグループに分かれる等の研究を重ね、最終的には 7 月に訪問調査国をドイツ及びイタリアとするとともに訪問調査先等を決定した。

8 月に委託旅行業者が決定した後は、旅行業者を通して訪問調査先への折衝が行われ、ドイツは現地コーディネーターの松田雅央氏から公共交通の実地利用を組み入れた訪問調査先等の代替案があった他、関係部門の変更等があったが、概ね希望に合った行程となった。一方、イタリアは、最終的に研究員が希望した公式訪問の受け入れができない機関が一部あったことは非常に残念であった。

その後、シュツットガルト・ホーエンローエ、フライブルク、イタリアの 3 つのグループに各リーダー及びサブリーダーを定め、訪問調査先の調査項目や担当者、役割分担を決定し、調査を行うこととした。

訪問調査に当たり、より詳細な情報を得るため、9 月に有識者を招いて事前研修会を 2 回実施した。イタリアについては、筑波大学大学院システム情報工学研究科講師の谷口綾子氏から、「欧州各国の国土計画・地域政策イタリアでのモビリティマネジメント施策、公共交通情報について」の演題で、英・仏・伊・独の国

土計画の概要やイタリアの交通施策事例として、職場対象モビリティマネジメント導入のための行政的支援策について、ローマ市の事例紹介等があった他、公共交通マップ・欧米の公共交通サイン等について、イタリア・ミラノ等各国の事例を講義いただいた。そして、ドイツは、アサインドテーマコースのコーディネーターの明治学院大学経済学部教授の服部圭郎氏から、「ドイツ（欧州）の交通事情について」の演題で、ドイツの地方制度や現状、運輸連合や路面電車等の公共交通政策について講義をいただいた。また、両講師から、海外調査の心得や留意点を教示いただき、質疑応答を含め、大変収穫の多い研修会になったといえる。

いよいよ海外における調査研究が10月16日から23日の日程で行われた。ドイツでは、到着したフランクフルト空港で、翌日に通訳をお願いしている松田雅央氏の出迎えを受けた。その後、シュツットガルトへ移動するまでの空き時間を使い、翌日の訪問担当の研究員が松田雅央氏からドイツの交通事情や訪問先でのマナー等を伺っていたのが印象的である。また、フランクフルト駅では、出入りする電車や時刻表、案内版等をカメラに収めたり、ICE（特急電車）に乗車し、早速、地域公共交通を体験した。

最初にHNVを訪問調査したが、ここでは、ユニークな形をしたドイツパンやジュース等のもてなしがあり、和やかな雰囲気の中、研究員の緊張も解れたものと思われる。訪問調査後には、同社に加入している路線バスに乗車したが、あまりの揺れの激しさに驚き、この時ばかりは自分を含め、乗り物酔いをした研究員が数名いたようである。翌日の訪問先フライブルクでは、市環境保全局長からCO<sub>2</sub>削減の取組み等環境政策の説明をいただき、また、ガイドから、高速道路にパーキングエリアがあまり見当たらない点について、自然を壊してまで整備するという発想がドイツにはないことやびん等のデポジット制（対象商品を扱っている店舗に持参すれば、換金される。）の話、そして、自転車専用レーンの整備が目についたこと等を踏まえると、公共交通の他に、ドイツの環境行政の進んだまちづくりの一面を垣間見ることができたといえる。

その他ドイツではVVS及びフライブルク交通株式会社を訪問調査した。

次の訪問国のイタリアへ向かう途中、フランスのストラスブール及びスイスのチューリッヒを經由したが、天候が悪かったせいか、非常に寒かった。ここでは

空き時間を利用して、トラム（路面電車）の乗車等を行うことができたが、途中立ち寄ったストラスブール中央駅のトイレが、ドイツでもお目にかかったが有料であったので、少々戸惑ってしまった。

イタリアはドイツ等に比べて過ごしやすく感じたが、ガイドや添乗員から「スリが多いから注意」と聞かされていたので注意深く行動するように心掛けた。初めての訪問都市ミラノでは、公式訪問先はなかったが、ガイドの協力を得て、関係資料の収集やレンタサイクル、トラム等の現地調査を行い、移動する専用バスから、調査項目の1つであったラジオバスを目撃できたのは良かった。

イタリアではジェノバでAMTジェノバ、フィレンツェでa t a fを訪問調査した。

イタリアは坂道やカーブが多い上に、路上駐車しているバイクや車が多いとのことだが、とりわけジェノバでは、その中を我々のバスがすり抜けていく様は圧巻であった。また、ガイドが、イタリア人の仕事観は日本と異なり、ゆったりとしているような話をしていたが、言われてみれば、フィレンツェで立ち寄った郵便局員や食事をしたレストランの従業員等にどことなくゆとりが見受けられ、とても羨ましく感じた次第である。

帰国後も集合研究会や電子会議室での意見交換を重ね、研究成果として調査研究報告書にとりまとめたので参照いただきたい。

海外における調査研究では、非常にタイトな行程ではあったが順調に進み、特に大きな事故もなく全員無事に帰国でき、事務局として感謝申し上げます。また、各研究員におかれては、現地の訪問調査や地域公共交通を利用しての実体験、そして、文化や風土等の違いに触れることができ、大変貴重な体験と知識が得られたので、今後の各自治体の地域交通施策に反映されることを期待したい。

最後に、この研究会をとりまとめていただいたリーダーをはじめ、研究員の皆様に深く感謝申し上げます。併せて、調査研究の実施に当たり、多大なご協力をいただいた訪問調査先スタッフ、添乗員、現地ガイド（通訳）、旅行業者等関係者に心から敬意を表したい。

（事務局 岩澤）

## 参 考 资 料

# 平成23年度 課題テーマ別調査研究実施要領

## (目的)

第1条 本格的な地方分権時代を迎え、地方自治体はますます自立と独自性が求められ、行政の様々な分野での変革を迫られている。

そこで、県内各自治体から、課題テーマに高い関心と強い意欲を持っている職員を研究員として募り、これから求められる政策課題について海外での調査を含む調査研究により、地方分権時代に対応した具体的施策の提言を求める。

## (対象職員)

第2条 対象職員（以下「研究メンバー」という。）は神奈川県内市町村の職員で、次の各コースの当該各号に該当する者とする。

### インディペンデントテーマコース（自主研究方式）

- (1) 課長補佐級（相当職を含む。）以下の職にあり、心身ともに健康な職員
- (2) 課題テーマに関連する職務に現在従事しているか、課題テーマの調査研究に取り組む意欲のある職員
- (3) 上記(1)(2)に該当し、(別紙1)の課題テーマ別に市町村長から推薦を受けた職員

### アサインドテーマコース（コーディネーター指導方式）

- (1) 課題テーマに関連する職務に現在従事しているか、課題テーマの調査研究に取り組む意欲のある職員
- (2) 心身ともに健康で、市町村長から推薦を受けた職員（職務の級は問わない。）

## (募集人数)

第3条 インディペンデントテーマコースにあつては2コースとし、募集する研究メンバーは、1コース10名程度とする。

アサインドテーマコースにあつては1コースとし、原則として1市町村から1名とする。なお、各コースとも応募者数が8名以下の場合は、事業を中止することもある。

## (調査研究方法等)

### 第4条

- (1) 調査研究期間は平成23年度中とし、インディペンデントテーマコースにあつては、概ね18日間程度、アサインドテーマコースにあつては概ね16日間程度の研究会を開催し、両コースとも、うち8日間は海外での調査研究に充てるものとする。
- (2) 具体的な調査研究方法及び日程は、(別紙2)の「調査研究の方法及び研究会の開催計画(予定)」のとおりとする。

(3) 国内での調査研究には海外調査の準備として次の事項を含むものとする。

インディペンデントテーマコース

- ① 具体的な調査研究方法の決定
- ② 調査訪問先及び調査項目の決定
- ③ 課題テーマに係る事前研究及び資料の収集
- ④ 調査研究結果(研究報告書)作成の方向及び役割分担

アサインドテーマコース

- ① 課題テーマに係る事前研究及び資料の収集
- ② 調査研究結果(研究報告書)作成の方向及び役割分担

(4) 研究会(インディペンデントテーマコースに限る。)において、調査研究に当たり必要があるときは振興協会と協議し、当該課題の専門家を講師として依頼することができるものとする。

(調査研究結果のとりまとめと研究報告書の作成)

第5条 研究メンバーは、コースごとに調査研究結果を取りまとめ、研究報告書を作成する。研究報告書は振興協会が全市町村長に送付する。

(経費の負担)

第6条 調査研究に係る直接経費は協会の規程等に基づき全額(支度料・日当は除く。)協会が負担する。

附 則

この要領は、平成23年4月1日から適用する。

(別紙1)

## 平成23年度課題テーマ

### 1 インディペンデントテーマコース

テーマ1： ワークライフバランスの取組み

調査訪問国 アメリカ又はヨーロッパ2カ国以内

テーマ2： 地域交通対策の取組み

調査訪問国 アメリカ又はヨーロッパ2カ国以内

### 2 アサインドテーマコース

テーマ： ユニバーサルデザインによるまちづくり

コーディネーター：明治学院大学 経済学部  
経済学科 教授 服部 圭郎氏

調査訪問国 ヨーロッパ

## インディペンデントテーマコース

### 1 調査研究の方法

- (1) 集合研究会として、主として振興協会会議室にてコース別に月1回程度行う。  
なお、必要に応じ、上記以外に説明会・打合せ等を開催することがある。
- (2) その他の調査研究
  - ① 通信による研究会（電子会議室、E-mail、FAX等）を常時メンバーで行う。
  - ② 自己研究
  - ③ 情報・資料収集（インターネット、図書、新聞、雑誌など）
  - ④ 研究のまとめ（各自）
- (3) 海外調査研究  
上記(1)(2)の研究に加え、海外での先進的事例等の調査研究を行う。

### 2 研究会の開催計画(予定)

- |              |               |
|--------------|---------------|
| (1) 合同説明会    | 5月下旬から6月上旬    |
| (2) 事前・事後研究会 | 6月から2月(10回程度) |
| (3) 海外調査     | 10月中(8日間)     |

## アサインドテーマコース

### 1 調査研究の方

- (1) 集合研究会として、振興協会で指定したコーディネーター等の講義・助言・指導の下に調査研究を行う。
- (2) その他の調査研究
  - ① 通信による研究会（電子会議室、E-mail、FAX等）をコーディネーター及びメンバーで行う。
  - ② 自己研究
  - ③ 情報・資料収集（インターネット、図書、新聞、雑誌など）
  - ④ 研究のまとめ（各自）
- (3) 海外調査研究  
上記(1)(2)の研究に加え、海外で調査研究を行う。

### 2 研究会の開催計画(予定)

- (1) 研究会の説明会及び研究会（講義）を5月下旬から6月上旬に1回行う。
- (2) コーディネーターからの講義・助言・指導を6月から10月に4回程度行う。
- (3) 海外調査として、10月中に国外で8日間の調査を行う。
- (4) 海外調査の訪問先等についてはコーディネーターと調整し協会で決定する。
- (5) その他の研究会として、帰国後に3回程度行う。



## ○ 国内研究日程

### 説明会及び第1回研究会

平成23年5月27日（金）

- ・オリエンテーション
- ・調査研究の進め方について

### 研究会

#### 第2回

平成23年6月9日（木）

- ・海外調査訪問国の検討

#### 第3回

平成23年6月22日（水）

- ・海外調査訪問国の検討
- ・海外調査訪問先の検討

#### 第4回

平成23年7月12日（火）

- ・海外調査訪問国の決定
- ・海外調査訪問先の決定

#### 第5回

平成23年8月24日（水）

- ・海外調査訪問先における調査項目の検討
- ・海外調査先における役割分担について

#### 第6回

平成23年9月28日（水）

- ・海外調査先における調査項目の確認
- ・事前研修
  - ①「欧州各国の国土計画・地域政策の特徴とイタリアの交通の様子や国民性等について」  
筑波大学大学院 システム情報工学研究科 講師 谷口 綾子氏
  - ②「ドイツ（欧州）の交通事情について」  
明治学院大学 経済学部 教授 服部 圭郎氏

第7回

平成23年10月11日（火）

- ・海外調査日程及び調査項目等の最終確認
- ・研究報告書の構成・まとめ方の検討

海外調査

平成23年10月16日（日）から10月23日（日）

- ・別紙「海外調査日程」

第8回

平成23年11月8日（火）

- ・研究報告書の内容の協議

第9回

平成23年12月13日（火）

- ・研究報告書の取りまとめ

第10回

平成24年1月11日（水）

- ・研究報告書の取りまとめ

第11回

平成24年2月16日（木）

- ・研究報告書の最終取りまとめ

## ○ 海外調査日程

第1日目：10月16日（日）

成田発 11：25（NH209便）

フランクフルト着 16：35

列車にてシュツットガルトへ移動

シュツットガルト泊

第2日目：10月17日（月）

（午前）「HNV」訪問調査

（午後）「VVS」訪問調査

シュツットガルト泊

第3日目：10月18日（火）

（午前）専用車にてフライブルクへ移動

（午後）「フライブルク市役所」訪問調査

「フライブルク交通株式会社」訪問調査

フライブルク泊

第4日目：10月19日（水）

（午前）ストラスブール市内公共施設調査

（午後）チューリッヒ市内公共施設調査

空路にてミラノへ移動

ミラノ泊

第5日目：10月20日（木）

（午前）ミラノ市内調査

（午後）「AMTジェノバ」訪問調査

ジェノバ泊

第6日目：10月21日（金）

（午前）専用車にてフィレンツェへ移動

（午後）「a t a f」訪問調査

フィレンツェ泊

第7日目：10月22日（土）

（午前）フィレンツェ旧市街調査

（午後）空路にてミュンヘンへ移動

ミュンヘン発 20：55（NH208便）

機内泊

第8日目：10月23日（日）

成田着 15：25

「地域交通対策の取組み」研究メンバー表  
 (インディペンデントテーマコース)

市町村名	氏名	所属・職名
大和市	リーダー 大西 徹也	街づくり計画部 街づくり総務課 主任
秦野市	サブリーダー 上松 太一	都市部 公共交通推進課 主任主事
中井町	サブリーダー 天野 泰	企画課 副主幹
相模原市	荻野 穰	企画部 広域行政課 主任
藤沢市	高橋 友穂	財務部 資産税課 主任
厚木市	佐々木 里枝	まちづくり計画部 都市政策課 主事
海老名市	柳田 裕史	まちづくり部 駅周辺対策課 係長
綾瀬市	村山 昇之	都市経済部 都市政策課 主事
大磯町	大澤 弘	財政課 主事
松田町	鍵和田 龍太	企画財政課 主査
(事務局)	岩澤 隆文	(財) 神奈川県市町村振興協会 主査